

## 体罰の要因分析における整理票（今回作成資料と昨年度作成資料との比較）

資料 2 - 1 「体罰の要因分析」（今回作成資料）	資料 3 「体罰の事故報告書から見る体罰の要因等について」たたき台（昨年度作成資料）
<p style="text-align: center;">体罰の要因分析 ～平成24年度体罰実態把握調査で新たに判明した体罰事案について分析～</p> <p>□ はじめに</p> <p>Ⅲ 体罰の発生要因</p> <p>1 誤った認識を持っていること</p> <p>(1) 体罰が禁止されていることを理解していない</p> <p style="padding-left: 2em;">【事例 4】 厳しい指導として、ある程度の有形力の行使は指導の許容範囲との認識があったもの</p> <p style="padding-left: 2em;">【事例 5】 児童生徒のやる気を出すために有形力の行使は必要であるとの認識があったもの</p> <p>(2) 自分の行為が体罰であると認識しない</p> <p>(3) 指導の範囲内であると認識</p> <p>(4) 保護者等に理解されたことで解決したと認識</p> <p>2 指導に熱心なあまり、指導が上手くいかず感情的になってしまうこと</p> <p>(1) 指導に熱心なあまり、指導が上手くいかず感情的になってしまい、体罰に及んだものが過半数ある</p> <p style="padding-left: 2em;">【事例 6】 口頭での指導が通じず、有形力の行使に至ったもの</p> <p>(2) どのような場面で感情的になってしまうのか</p> <p>3 児童生徒の指導が教職員個人に任されていること</p> <p style="padding-left: 2em;">【事例 7】 児童生徒の指導が教職員個人に任されている事例</p> <p>I 75件の体罰が調査以前に報告されなかった要因</p> <p>1 事故者の認識</p> <p>(1) 自分の行為が体罰ではないと思っている教職員が存在する</p> <p style="padding-left: 2em;">【事例 1】 自分の行為が体罰と認識していなかったため、報告されなかったもの</p> <p>(2) 体罰を行った後、事態が収束したため、報告は要しないと思っている教職員が存在する</p> <p style="padding-left: 2em;">【事例 2】 体罰と認識していたが、児童生徒やその保護者に謝罪し、理解を得られたことから、問題が解決したと考え、報告しなかったもの</p>	<p style="text-align: center;">体罰の事故報告書から見る体罰の要因等について 〔取りまとめのイメージ〕（たたき台）</p> <p>平成24年度において発生した体罰事故に係る事故報告書や、北海道体罰防止対策連絡会議において、各教育関係団体からいただいた意見等に基づき、体罰が発生した要因や、体罰が学校の管理職員に報告されなかった要因などについて分析を行い、次のとおりまとめた。</p> <p>1 体罰が発生した要因（教職員の認識として）</p> <p>(1) 間違った教育観や指導観を要因とするもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 厳しい指導として、ある程度の体罰は必要であるとの認識</li> <li>・ 生徒のやる気を出すための有形力の行使は必要であるとの認識</li> </ul> <p>(2) 児童生徒理解力や生徒指導力の不足を要因とするもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 口頭での指導が通じず、有形力の行使に至ったもの</li> <li>・ 生徒の行為に感情的になった（カッとなってしまった）もの</li> </ul> <p>2 体罰事故が報告されなかった主な要因</p> <p>(1) 教職員の認識としての課題</p> <p>① 体罰とは認識しなかったため報告されなかったもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自身の行為が体罰ではないと判断したもの</li> </ul> <p>② 体罰と認識していたが報告しなかったもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自身の行為は指導の範囲内であると判断した（多少の体罰は許される）</li> <li>・ 体罰を行った児童生徒や保護者に謝罪し・理解を得たことから、問題が解決したと考え、報告は要しないと判断した</li> </ul>

資料 2 - 1 「体罰の要因分析」(今回作成資料)	資料 3 「体罰の事故報告書から見る体罰の要因等について」たたき台(昨年度作成資料)
<p>3 児童生徒・保護者の認識</p> <p>2 学校(所属長等の管理職員)の認識</p> <p>【事例 3】保護者の理解が得られ、学校が道教委に報告しなかったもの</p> <p>II 体罰の状況分析 ※新規追加</p> <p>1 発生状況</p> <p>(1) 校種別発生状況</p> <p>(2) 場面別発生状況</p> <p>(3) 場所別発生状況</p> <p>2 体罰事案の分析</p> <p>(1) 授業中、教室で発生した体罰事案の分析</p> <p>(2) 部活動中、運動場・体育館で発生した体罰事案の分析</p> <p>※ 右欄の「検証事例」、「当該教諭の認識」、「生徒・保護者の認識」、「分類・区分」、「分析内容と対応策」については、各ページの【事例】で整理</p>	<p>(2) 保護者・児童生徒の意識としての課題</p> <p>① 児童生徒が自身の指導と捉え、体罰とは認識されなかったもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分(児童生徒)が悪かったため必要な指導と認識したもの</li> </ul> <p>② 教員の指導を容認したもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 厳しい指導はある程度必要であるとの認識</li> </ul> <p>③ 学校に対して意見等を言いづらいとの意識</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもが不利益を受けることをおそれて学校に意見等を言えない意識</li> </ul> <p>(3) 学校の体制としての課題</p> <p>① 指導の場面から</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個室(教室・グラウンド)での指導が多く、他の職員から認識されにくい</li> </ul> <p>② 学校の体制として</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他の教員の行為について管理職に言いづらい教員の意識</li> <li>・ 体罰に関して児童生徒や保護者等への確認機会等の不足、保護者への啓発</li> <li>・ 教職員への研修機会の充実</li> </ul> <p style="text-align: center;">とりまとめの項目</p> <p>1 体罰が発生した要因(教職員の認識として)</p> <p>(1) 間違った教育観や指導観を要因とするもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 厳しい指導として、ある程度の体罰は必要であるとの認識</li> </ul> <p><b>検証事例</b></p> <p>〈体罰事案の概要〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 体罰が行われた場面、場所</li> <li>○ 体罰の態様</li> <li>○ 体罰に至った経緯</li> <li>○ 体罰の程度 など</li> </ul> <p><b>当該教諭の認識</b></p> <p>〈教員は、どのような認識で体罰を行ったのか〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 当該教員の心情</li> <li>○ 体罰に対する認識 など</li> </ul>

資料 2 - 1 「体罰の要因分析」(今回作成資料)	資料 3 「体罰の事故報告書から見る体罰の要因等について」たたき台 (昨年度作成資料)
<p>IV 対応策 ※新規追加</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 感情のコントロールについて</li> <li>2 コンプライアンスの徹底の意識付けについて</li> <li>3 体罰に対する正しい認識を持つための取組 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 教職員</li> <li>(2) 所属長</li> <li>(3) 児童生徒・保護者</li> </ol> </li> <li>4 体罰事故を起こしてしまったら事故報告を!</li> </ol> <p><input type="checkbox"/> おわりに</p>	<p><b>生徒・保護者の認識</b>  〈児童生徒や保護者は、体罰行為をどう受け止めたのか〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 体罰を行った教員に対する心情</li> <li>○ 体罰に対する認識 など</li> </ul> <p><b>分類・区分</b>  〈体罰に至った要因を区分・分類する〉</p> <p><b>分析内容と対応策</b>  〈体罰事案の要因・対応策〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 体罰の背景や原因として考えられること</li> <li>○ 学校及び保護者等が取り組む対応策 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校体制に関すること</li> <li>・管理職の役割に関すること</li> <li>・教員一人ひとりの努力に関すること</li> </ul> </li> </ul>

※ 昨年度作成資料とは、平成25年8月に開催された第2回体罰防止対策連絡会議の資料3「体罰の事故報告書から見る体罰の要因等について」たたき台である。